

- 1 日 時： 令和2年9月11日（金） 午後2時～午後3時30分
- 2 場 所： 京都府庁旧本館2-M会議室
- 3 出席者： 高田部会員、志藤部会員、滝野部会員、垣内部会員、持田部会員、山崎部会員、佐野部会員、近藤部会員、小出部会員、武田部会員、芦田部会員、山路部会員

4 概要

- (1) 第6期京都府障害福祉計画・第2期障害児福祉計画の策定について
■事務局から、資料1により説明

<質疑応答・意見交換>

●部会員

新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の影響から、盲ろう者向け通訳介助員やガイドヘルパーの登録者数・派遣数が減少している。賃金が安いなどの課題もあり、障害者を支援する側も安心して仕事ができるような制度を整えてほしい。

→（事務局）

新型コロナ対策として、盲ろう者向け通訳介助員の派遣に係る委託先に対し、府からフェイスシールドなどの資材提供を行っている。養成カリキュラムの見直しを含め、今後スムーズな派遣ができるように、話し合いを進めていく。

●部会員

病院における手話通訳の際、新型コロナ対策として手話通訳者のみが診察室で医師の説明を聞き、その後手話通訳者から当事者に内容を伝えるようにと言われた。行政から医師に指導をしてほしい。

○事務局

意識を変えていただくよう、府からも京都府医師会にお願いしているところ。国からも全国医師会に働きかけを行っていく必要がある。

●部会員

災害時の対応については、障害福祉計画で定めるのか。

○事務局

災害時の要配慮者支援については地域福祉支援計画において記載しており、障害福祉計画の記載内容についても整合を図っていく。

●部会員

新型コロナ対策としてZoomを活用したリモート会議を実施している。資料1-1の基本指針見直しの主なポイントとして「障害者の社会参加を支える取組」があるが、公共施設におけるWi-Fi整備は社会参加を支える取組に含まれないのか。

○事務局

今年度の新型コロナ対策予算において、環境整備を進めているところ。今後順次取り組んでいきたい。

●部会員

資料1-1に新たな取組として記載されている「難聴児支援のための中核的機能を果たす体制の確保」について、中核的機能とはどのようなもので、府内何箇所を想定しているか。

○事務局

現在のところ、府聴覚言語障害センター1箇所を想定しており、今後の取組について検証していく。

●部会員

厚生労働省・文部科学省が連携し、「難聴児の早期支援に向けた保健・医療・福祉・教育の連携プロジェクト」が立ち上げられた。来年度事業公募があれば、聾学校としてもぜひ手を挙げて取り組んでいきたい。

(2) 令和元年度聞こえの共生社会推進施策の取組状況について

■事務局から、資料2により説明

- ・遠隔手話サービスについては、9月4日時点で18件の利用があり、良い評価をいただいている。
- ・遠隔要約筆記については、現在対応可能な要約筆記者の養成を進めているところ。

<質疑応答・意見交換>

●部会員

府内市町村においてコミュニケーション条例制定の動きが広がっている。聴覚障害に関する子どもたちの理解を進めていくため、(福)全国手話研修センターでは、助成により「小学生手話チャレンジ事業」を実施することとなった。300の手話を映像つきで紹介するものであり、令和3年9月には完全実施予定。インターネットでも活用できればと考えている。

●部会員

遠隔手話サービスについては、新型コロナ収束後も含め、今後どのように活用していくかが課題である。地域の暮らしを高める枠組みをしっかりと整えていきたい。

●部会員

聾学校における新型コロナの影響等について共有したい。4月に休校となり、生徒の保護者と連携をとりながら、生徒への支援を行った。クラスのホームルームではZoomを活用し、生徒同士のつながりを確保した。学習となると難しく、パワーポイントに手話画面をつけてYouTubeで限定配信するなどの工夫をしたが、各家庭によりネット環境が異なるなどの課題が見えてきた。

新型コロナに伴う学校再開等支援事業として500万円の補助金を受け、ハード・ソフト両面での整備に取り組んでいく。

近年聾学校の生徒数が減っており、特に高等部の生徒が減っている。普通校の定員

割れや私学助成の充実などの理由が考えられるが、聾学校としても発信力を高める取組に力を入れていきたい。教員の手話力向上にも重点的に取り組んでいく。

●部会員

京都盲ろう者ほほえみの会の会員を対象に、コロナ禍での暮らしの実情に関するアンケートを行った。盲ろう者向け通訳介助員の派遣が減り、盲ろう者は今年5月以降我慢の生活を続けている。通院などは介助員を派遣してもらっているが、盲ろう者が「誰かと話したい、散歩をしたい」など日常の中でストレスを感じ、苦しい状況の中にいることをわかってほしい。

○事務局

そのような状況を改善できるよう、引き続き検討していきたい。

以上